

# 『ハッピーエンディングプランナー』養成講座を開設

一般社団法人日本ハッピーエンディング協会 代表理事 齋藤 真衡氏

## クローズアップ



「日本人は、病气や死への備えとして世帯の90%以上が生命保険に入っているわけだが、例えば意思能力の喪失リスクなどお金の心配は、準備ができていないのが実状だ」

### 独自開発のオリジナルカード使って

#### 保険金で解決できないリスクへの備え、もう一つの保険、シニアライフの不安解消をトータルサポート

一般社団法人日本ハッピーエンディング協会(東京都千代田区、齋藤真衡代表理事)は、このほど、シニアライフの包括的なナビゲーター・よろず相談役を担う『ハッピーエンディングプランナー』養成講座を開設した。齋藤氏は、意思能力の喪失リスクといった保険金で解決できないリスクに対する備えを、もう一つの保険と呼称し、ゲーム感覚で短時間かつ簡単にこれまでに盲点となっていたこうしたリスクを顕在化させる「Happy Endingカード」を独自開発。同ブ

ランナーは、保険提案時等に、本カードを用いることでシニアライフの不安解消をトータル的にサポートするエキスパートである。「終活というものがクローズアップされているが、私は終活よりもっと前向きな、幸せを継続させ、最期に『ハッピーエンディング』を迎えることを重視している。しかし、我々プロからすれば分かっているたくさんの落とし穴がある。これをきちんと知らしめるのが真の意味でのリスクマネジメントだと考えている」と話す同氏に話を聞いた。

「この「Happy Endingカード」は2014年12月に設立した株式会社回(KAI)にて独自開発し(特許出願中)、昨年7月、満を持してリリース。49枚のカラーフルなカード

「日本人は、病气や死への備えとして世帯の90%以上が生命保険に入っているわけだが、例えば意思能力の喪失リスクなどお金の心配は、準備ができていないのが実状だ」

### 他業種との連携も

#### 東京・大阪・名古屋で順次開催



老後の潜在リスクをゲーム感覚で浮き彫りにするHappy Endingカード

「セカンドライフシミュレーションゲームと呼んでいる。お客様も厚いパンフレットは読まないでください。この「Happy Endingカード」は2014年12月に設立した株式会社回(KAI)にて独自開発し(特許出願中)、昨年7月、満を持してリリース。49枚のカラーフルなカード

「セカンドライフシミュレーションゲームと呼んでいる。お客様も厚いパンフレットは読まないでください。この「Happy Endingカード」は2014年12月に設立した株式会社回(KAI)にて独自開発し(特許出願中)、昨年7月、満を持してリリース。49枚のカラーフルなカード

### 思いが生じる

#### 「人から言われたのではなく、お客様自身の判断でこれを何とかしておきたい」と

「人から言われたのではなく、お客様自身の判断でこれを何とかしておきたい」と

同協会では、顧客のセカンドライフのニーズに幅広く応えるため、士業や介護事業者、葬儀事業など他業種の会員ともネットワーク化を図り、連携できる組織の構築にも取り組んでいく。

「これまで保険募集人はお金にまつわる話ばかり行っている。保険を販売するだけでなく、一般の募集人がしない、終末期の緩和ケアや尊厳死の問題など保険金で解決できないリスクへのサポートまで行えば、真の意味でのリスクマネジメントといえ、必ず募集人の大きな武器になるだろうと考えている」

▽同協会HP <http://happyending.or.jp/>